

---

# そばに置いてよ

ちい☆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そばに置いてよ

### 【Nコード】

N4174L

### 【作者名】

ちい☆

### 【あらすじ】

あの夏、恋なんかしないってきめた。

でも……。

何でこんなに苦しいのかな??

## 事の発端

「ごめん。俺ら、終わりにしよう。」

遠い遠いはるかかなたから響いてきた言葉。  
何で今頃あのときの夢なんか見たのかな？

あの夏、きめたんだ。

”モウ、コイナンテシナイ”

私は、学校に着く30分間の間、自分に言い聞かせるように、  
幾度も幾度も心の中で唱えた。。。

〈学校〉

「滯〜！！おはよっ☆」

「「あ、きーちゃん！おはよ〜^^」」

この子は〜って、自分の紹介からだね。。。

私は、園崎<sup>そのさき</sup> 滯<sup>みお</sup>だよ^^

章ノ森高校の一年生！！

んで、挨拶してきてくれたこの子は、  
中学からの友達<sup>あさか</sup>の、朝霞<sup>さくの</sup> 菊乃<sup>きくの</sup>って子！  
結構勉強もできるから、憧れなんだ〜（テレ

「・・・い・・・滯！！！」

「「ぷへ!?!」」

「は〜・・・、ぷへ!?! じゃないよ・・・。」

「「ごめん・・・。また??!」」

「そーだよ! 全く〜。急に飛ばないで!!」

「・・・ごめん」

なんか、私、園崎 滯には、時々自分の世界に入ってしまうよう。。。。

このくせ、何とかなんないのかなあ・・・。

「だからね、私、好きな人ができたんだ〜!」

「「ほんと!?! だれだれ??!」」

「そ・れ・は!」

ドキドキ・・・。

「秘密!?!」

ドテっ!

「「ええ〜〜!?! その流れ、マジないわ〜!?!」」

「まあ、まあ。うまくいったら、報告するから、ね??!」

「「うゝ……。しゃーないか……。がんばってね?」」

「まかせて!!!!」

こんな風に、友達に好きな人ができるなんてこと、  
どこの世界でも、珍しくないと思ふ。

でも、だからといって、私は恋なんか、絶対にしない。

あの傷は、癒されないんだ。

男というものが、どんなものなのか、あの夏、よく分かった。  
それは、あいつに限ってかもしれない。

でも、私にとってはどうでもいい。

恋なんて。。。。。

ゝ家ゝ

「「ただいま。。。。。」」

シーン。

いつものことだ。

家に誰もいないなんてこと。

モウ。慣れちゃったから^^V

って、強がっては見ても、やっぱり寂しいね。

あ、誰もいないってのは、よく小説とかにある、  
仕事ばっかりとか、そんなんじゃないかと、

数年前、事故で死んじゃったんだよね。。。

あ、これこそまさに小説チックだったかWW

ヴーヴー

「「ん?」」

携帯にメールが来た。

かちゃ

「「あ、きーちゃんからだ!」」

割といつも長文な、きーちゃんからのメール。

<今から、ちょっとだけあって話したいから、

東駅前のカフェに来てくれる??>

長いかとおもっていたきーちゃんからのメールは、  
以外にも短くてびっくりした。

どうしたのかな??

これから、夕飯を作って、早く寝てしまいたいと思ったけど、  
なにかただならぬ感じがした私は、

<わかったよ^^vいまから行くね☆>

と、だけ、なれない手つきで打ち込みながら、私服に着替えて家を出て行った。

〽東駅前〽

「「えっと、確か、きーちゃんの好きなカフェは・・・あ!こっちだ!」」

なぜだか、私には方向音痴という、これまたすつとぼけた癖がある・  
・。

何とかならないものかと、自分自身に苛立ちを覚えている間に、  
きーちゃんのお気に入りカフェにたどり着くことができた私。

「きーちゃん！ごめんね。遅くなっちゃった！」

「あ、滞。気にしないで大丈夫。」

「「そ？？ならいいけど……。てか、なんか、暗いけど、どしたの？」」

「……。うん……。」

きーちゃんの様子が明らかにおかしい。

絶対に何かある、以前もそうだった。

何も知らされずにこのカフェに呼ばれて、  
大好きなネコ、死んじゃったって。

ここに呼ばれたら、なにかある。

そうおもったほうがいいばしょなんだ。

「あ、のね……。」

「「ん？？」」

「……。られちゃったよ……。」

「「え？」」

周りの雑音がうるさすぎて、きーちゃんの声が聞き取れない。

だからこそ、この場所なのかもしれないな、シーンとしてなくて。

「好きな人に、さっき告白したの。で、見事玉砕……。」

「「えっ……。。」」

「ほらっ！笑ってよー滞。あはは．．．はは．．．ぐす．．．」

「きーちゃん．．．」

私は、心がチクンとなった気がした。

恋の悩みに関して、私が言えることは、ない。  
単純にそう思った。

「ごめ．．う．．み、おが．．」

「「分かってる。何も言わないで？」」

「あ、りがとう．．．」

三十分後、きーちゃんは落ち着いたみたい。  
にっこりわらって、コッチを見上げてる。

私になんか打ち明けて、ないくらいで、  
吹っ切れたのかな？

なら、それでもいいんだけど．．．。

「あのね？」

きーちゃんが口を開いた。

「私、あきらめないよ。」

「「え？」」

「振られちゃったけど、やっぱりたかのこと好きだからさ。」  
「たか．．．だれかな？」



「「きーちゃんは、そのたかってひとのこと、ほんとに好きなんだね。」」

「うん。」

「「がんばってね?？」」

「ありがとう・・・うーぐず。」

「「あゝ!! なかないでよー><」」

キーちゃんが元に戻ってよかった。  
私たちは、その後家路を急いだ。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4174/>

---

そばに置いてよ

2010年10月17日03時54分発行